

京都府立医科大学附属病院で大腸切除を受けられた患者様・ご家族の皆様へ

ヒト大腸癌患者検体を用いた新規大腸癌バイオマーカーの探索

今回、京都府立医科大学は、大腸癌症例においてヒト大腸癌患者検体を用いた新規大腸癌バイオマーカーの探索に関する研究を実施いたします。そのため、過去に京都府立医科大学附属病院で大腸切除を受けられた患者様の診療録や検体、さらには以前に『消化器がん組織ならびに担がん患者の体液保存プロジェクト』に参加いただいた患者様の検体を調査させていただきたいと考えています。

※ 消化器がん組織ならびに担がん患者の体液保存プロジェクト

京都府立医科大学医学倫理審査委員会の承認の元、今後の新たな癌研究に利用し癌治療の発展を目指して、血液検体、尿検体、腫瘍組織、正常組織を保存することを目的とした臨床研究。当科で手術を行う患者の内、インフォームドコンセントを取得できた患者様に行っております。

研究の目的

近年大腸癌における治療は進歩し、多くの治療方法が開発され治療効果の大いなる進歩が実現しております。しかしながら、個々の患者によっては未だにその治療効果が薄く、全員の患者様を救命できている状況ではありません。

最近では各癌におけるバイオマーカーといわれる癌の治療効果や、薬剤の開発などに役に立つ分子発現を調べる研究が世界的に盛んにおこなわれております。

そこで今回我々は、当院で保存されている切除標本や、臨床検体、さらには以前に臨床検体保存プロジェクトという臨床研究にご参加いただいた患者様を対象に新規治療法の開発や癌の悪性度予測に有用なバイオマーカーの探索を行い、統計学的解析による臨床的意義の評価を行うことにしました。

研究の方法

・対象となる患者様について

1996年1月1日から2018年10月31日までの間に、京都府立医科大学消化器外科で大腸癌に対し大腸切除術を受けられた患者様が対象となります。使用させていただく試料・情報に関しては、切除標本の一部、血液・尿・腹水などの体液検体、性別、年齢、既往歴、病理診断結果、治療経過内容等になります。

・方法について

各々の検体を用いて、タンパク発現、遺伝子発現の程度を評価し、バイオマーカーとなり得る分子を選び出し、それらを各腫瘍における特徴や、患者さんの治療成績と照らし合わせ検討を行います。

・資料の管理について

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。

ご自分、あるいはご家族の情報を本研究に登録したくない場合は、2023年12月31日までに下記連絡先までご連絡ください。試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。なお上記までに申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

ご希望があれば、個人情報の保護及び本研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究計画及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧することができます。その場合は、下記連絡先までご連絡をお願いします。

本研究は、実施にあたり京都府立医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。

連絡先

京都府立医科大学消化器外科

学内講師・塩崎 敦

電話：075-251-5527